



Motorcycle Federation of Japan

F.I.M./U.A.M. affiliated federation



株式会社 モリワキエンジニアリング  
取締役 森脇 緑 様

2010年3月11日  
MFJ第09-90号

件名：2010年度日本グランプリにおける Moto2 クラスワイルドカードについて

初春の候、貴殿におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より、モーターサイクルスポーツ普及に寄与いただきありがとうございます。さて、貴殿よりいただきました3月10日付けワイルドカード選考に関する文書につきましてご回答いたします。

ご存じのとおり、Moto2 クラスは今年より開始され、その詳細についての発表はかなり遅く、特にワイルドカードに関する基準の発表は今年2月になりました。MFJとしては昨年中にST600クラス上位よりワイルドカード枠を与えることを発表いたしました。2月に発表されたワイルドカード基準では、MFJ 枠は1台、FIM 枠が1台の計2台ということ、並びに出場条件として当該週の木曜日に支給されるエンジンを使用し、その場で車両を完成させなければならないことから、2009年ST600ランキング上位チーム以外からFIM 枠分を募集すべく弊協会ホームページにてワイルドカードに関する告知をし、2チームから申請を提出いただきました。MFJ といたしましても、ほぼ同じ規則で今年から始まるJ-GP2 クラスのプロモーションを兼ね、より多くの日本人ライダーの出場を認めていただくよう、FIM、DORNA 等と交渉をしてみましたが、エンジン供給の問題、日本大会だけの特別枠とすることの問題から、ワイルドカード枠の追加は認められないとの回答がありました。

そのため、すでに発表されているワイルドカード基準に当てはまる手嶋選手をMFJ 枠として登録し、残りのFIM 枠についての選定基準についてロードレース正・副委員長と協議いたしました。

その結果、ワイルドカードの存在意義（世界選手権に出場しないまたは出来ないライダーへの経験機会を与える。当該国選手権ライダーの出場による国内選手権の活性化を図ること。）を考慮し、全日本 J-GP2 クラスの活性化に重点を置き、J-GP2 に出場を決定しているチームを選出し、FIM 枠として推薦することといたしました。

勿論、モリワキエンジニアリング様としての40年以上に亘る日本国内のモーターサイクルレースへの貢献は言葉にするまでもなく理解しておりますが、過渡期である日本のレース界活性化のため、ワイルドカードを使用することと致しましたことをご理解いただきたく存じます。

以上

(財)日本モーターサイクルスポーツ協会  
会長 高野 明

高野 明